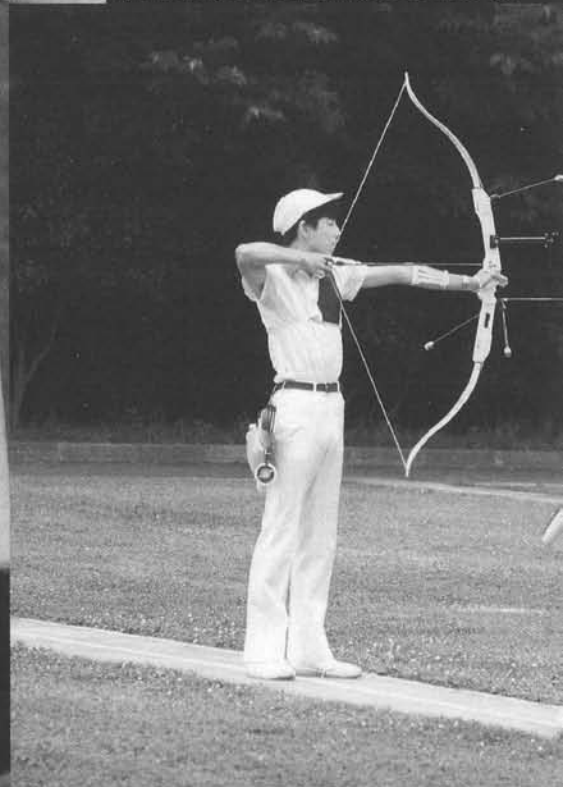


洋弓部





1969(昭和44年)・8・10 川西大介がアメリカにおいて行われた世界選手権大会に日本代表として出場する。



1987(昭和62年) 高校部の高広和弥が沖縄で開催された海邦国民体育大会に出場、好成績を納める。



1989(平成元年) 東日本選抜に於いて優勝し、ナショナルチームに選ばれた清水選手は、日本代表として全米選手権に出場する。





1989 (平成元年) 大阪長居球技場において開催されたインカレに出場し、好記録を納めた田中選手(中央)。



1990 (平成2年) リーグ戦第1戦における田中主将。武蔵大学レンジにて。



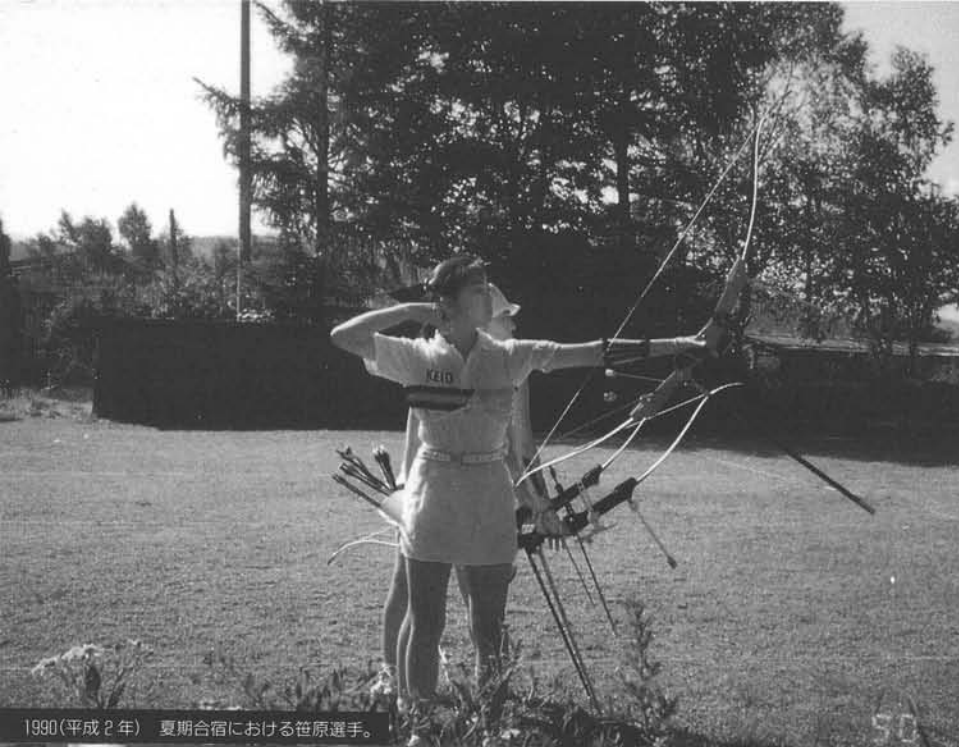
1990 (平成2年) リーグ戦第3戦における田中主将。



1991(平成3年) 熟内競技会で高得点をマークした戸村選手。



1991(平成3年) 夏期合宿における栗林選手。



1990(平成2年) 夏期合宿における笹原選手。



1987(昭和62年) 夏期合宿における岡々田選手。



1960 従来より存続していた体育会弓術部内の一部門として、弓術部OBの尽力により洋弓班が発足する。

1962 関東学生アーチェリー連盟に加盟。

1963 猪股英毅が世界選手権大会に出場し、同年全日本学生アーチェリー選手権大会に優勝する。

1966 洋弓班初代監督として山下隆紹が就任。

1967 第2代監督として伊沢誠二が就任。女子部が創設。また、日吉キャンパス内に専用射場が完成。

1968 関東学生アーチェリーリーグ戦で残念ながら2部に転落。再起を期す。

1969 川西大介が1178点の日本新記録を樹立。世界選手権大会に出場し、同年全日本アーチェリー選手権大会に優勝する。

1970 慶應義塾高等学校にも洋弓班が創設される。インターハイ出場の佐藤達也が高校新記録を50、30メートルに樹立(601点)。

1971 関東学生アーチェリーリーグ戦で念願の1部昇格を果たす。

1973 伊沢監督、竹原主将のもとで東西学生アーチェリーリーグ戦優勝校が相争う全国王座決定戦に初めて進出し、王座を獲得する。

1974 伊沢監督、佐藤主将のもとで2年連続王座決定戦に出場し、連続優勝を果たす。

1975 第3代監督として小布施明が就任。女子部が初めて関東学生アーチェリーリーグ戦に参加。インターハイで西村明弘が30メートル射で高校新記録(339点)を出す。

1976 日吉キャンパス内の専用射場に新たに90メートル射線が完成。

1977 全国高校総体で初めて高校部が団体優勝を獲得。個人部門では神野浩優勝。日吉キャンパス内に部室が完成。

1979 小布施監督、高橋主将のもとで全国王座決定戦に出場し、3回目の優勝を成し遂げる。全日本学生アーチェリー選手権で田中誠

が個人優勝を遂げ、ナショナルチーム入りを果たす。

1980 関東学生アーチェリーリーグ戦において女子部が創設以来初めての1部昇格。

1981 第4代監督として伊藤達也が就任。

1982 関東オールラウンド・アーチェリー大会において太田信之、林昭有、藤井直行チーム初優勝。太田は全日本学生アーチェリー選手権大会でも優勝。高校部は国民体育大会団体戦3位を獲得。

1983 関東学生アーチェリーリーグ戦優勝。全日本学生アーチェリー選手権大会で林昭有が1261点の大会記録を出し準優勝。さらに、関東オールラウンド・アーチェリー大会でも太田、林、藤井チームが健闘し連続優勝を成し遂げる。高校部もインターハイで団体戦準優勝、個人戦、池田達爾優勝。池田は全国選抜大会でも健闘し4位となった。

1982 創部以来、体育会弓術部洋弓班として



1991(平成3年) 夏期合宿における石川選手。



1991(平成3年) 夏期合宿における田口選手。



1989(平成元年) 関東学生個人選手権における田中選手(中央)。

活動を行ってきたが、弓術部OB、洋弓班OBの尽力で弓術部より分離。体育会洋弓部として新たに発足。

1984 第5代監督に川西大介が就任。

1987 関東地区国体予選個人戦部門で高校部高広和弥優勝。

1988 OBの尽力により部室が新築される。

1989 川西監督、田中主将のもとで全日本学生アーチェリーリーグ戦東日本大会、優勝。東日本選抜大会で清水徹也が優勝、ナショナルチームの一員になり、全米選手権大会に出場。

1990 第6代監督に竹原利明が就任。

1991・5・26 関東学生アーチェリーワールド大会で田口典子が女子個人戦優勝／9・28 第3回関東学生アーチェリーフロンティアカップ大会で男子団体戦優勝。

体育会優秀選手塾長招待会



1987(昭和62年) 塾長招待会出席者。